

第52回卒業証書授与式、挙行

思港

第14号

2023年4月15日発行

神奈川県立
港北高等学校
思港会会報

サプライズに場内沸く

第52回卒業証書授与式が令和5年3月2日、体育館で執り行われました。式次第「同窓会長の言葉」では、嶋村会長の出席のご都合がつかず、副会長の田村が代理で出席しました。

以下、谷原章介さん卒業式ご登壇の報告です。まず、谷原章介さんを

お呼びした経緯について松崎校長先生にお話を伺いました。

「52期生は、入学当初からコロナによる休校で始まった学年でした。その後も様々な制限の中で過ごした3年間でしたが、その中で、今できることに精一杯取り組み、部活動でも陸上部の



温かいメッセージをくださった谷原さん



52回目の卒業式

インターハイ出場や音楽部・書道部・放送部の全国大会出場など大きな成果を収め、さらに多くの生徒が上級学校への進学を目指して最後まであきらめずに奮闘していました。

あらためて52期生の本校での3年間を見たとき、コロナによって様々な制限を受けた中で努力してきたこの生徒たちに、何かしてあげられることはないかと考えておりましたところ、夏のPTAの関東大会に参加した折に谷原さんからのビデオメッセージを拝見し、また、50周年でもメッセージをいただいたことを聞き、是非52期生にもメッセージをいただけないかと思ひ、所属事務所へ連絡をしました。

そうしたところ、谷原さんは快く引き受けていただいたうえに、ビデオではなく卒業式当日に直接お話ししていただけるということになりました。

当日は生放送の『めざまし8』の出演が9時50分まであるので、終了後すぐにお台場から駆けつけていただき、生徒・保護者にはサプライズで登場いただくことになりました。

当日は生放送の『めざまし8』の出演が9時50分まであるので、終了後すぐにお台場から駆けつけていただき、生徒・保護者にはサプライズで登場いただくことになりました。

谷原章介さん登場

式の途中、司会者が「式次第にはありませんが特別に一人の同窓生が駆けつけてくださいました。港北高校第20期卒業生、俳優の谷原章介様です」と紹介すると、一瞬会場

がどよめき、「ご本人が体育館後方入り口から真ん中の花道を歩いて壇上まで進まれると、驚きと興奮のウエーブが後方から前方に谷原さんの歩みとともに起こりました。

壇上には上がられた谷原さんは「同窓生の言葉」として卒業生にメッセージを送られました。「コロナに翻弄された52期生とそれを見守る親御さんのご苦労をねぎらい、ご自分の港北高生時代の思い出とそのころを共にした友人の大切さ、今まで生きてきた中でモデル、俳優、司会とあらゆる挑戦を続けた先に皇居での「天皇陛下即位の礼の式典の司会」という大変光栄な大役を経験し言葉には代えられない達成感を得られたこと。みなさんもこれから失敗を恐れず、自分のやりたいことを見つけて挑戦してください、と語られました。

その後、卒業記念品贈呈、在校生の言葉、卒業生の言葉、卒業の歌、校歌斉唱（一緒に歌って）

ておられました。閉式の言葉、と式の最後まで壇上から生徒達を温かく見守り、卒業生の退場を見届けてくださいました。

生放送「めざまし8」終了後、フジテレビから港北高校まで、マネージャーさんの運転する車で駆けつけてくださったのですが、卒業式は10時から始まっており、式の間に谷原さんが無事到着されるという保証は無く、校長先生をはじめ先生方はさぞかしハラハラドキドキされていたと思います。

52期生にとって素敵な卒業式の思い出となるサプライズをプレゼントしてくださいました。



左から、内藤PTA会長、松崎校長先生、谷原さん、田村副会長

感謝致します。

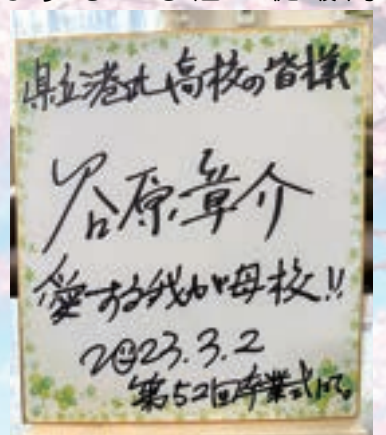
式終了後、校長先生のお計らいで、谷原さんが過ごされた20期11組の教室にご案内されましたが当時視聴覚室の手前であった教室は建て替え工事後、今は多目的室になっていて入れず、それではと屋上にご案内されました。

当時の校舎のまわりの景色を思い出され、ひと時懐かしい高校時代に思いをはせておられるようでした。

校長室で色紙にサインをお願いされると、谷原さんは快く応じて下さり、「愛する我が母校!!」と記されました。

今回のサプライズの申し出をすくすく快諾され、主催者側からのお礼の申し出を固く断られたそう、そのお人柄は素晴らしく、港北高校同窓生として迎え出されたことを同窓会としても誇りに思います。

谷原章介さん、本当に有難うございました。



谷原さんに書いていただいた色紙「愛する我が母校」とある



入学式に向けた花壇整備メンバー



校門右の花壇



園芸指導風景

2011年からPTA環境委員さんと一緒に花壇整備活動を始め、12年目を迎えました。春と秋に校内3か所の花壇に花苗や球根を植

緑化活動(花壇整備)

え、入学式、卒業式、思港祭、学校説明会のためには、特に華やかさを演出して学校行事に華を添えています。園芸指導は2期生ボラ

思港会公式サイトのご案内

公式サイトでは卒業生から寄せられた同期会の開催情報や思港会の活動報告など随時掲載しています。同期会、クラス会、部活のOB会情報などサイト内メッセージフォームからお寄せください。

【思港会ホームページ <http://www.kohokuob.com>】



メンバリーには環境委員さんOGのお母さまや、最近卒業したばかりの卒業生も参加してくださいます。港北高校の関係者であれば、在校生、卒業生、保護者OB、OGなどたでも参加いただけますので、同窓会ホームページからお申込みください。

同窓会では在校生への活動支援の一環として横断幕を寄付しています。高いレベルで活躍される現役生からメッセージを頂きましたので、紹介いたします ※学年・組は令和4年時

水泳部

1年2組 武藤 大晴さん

立派な横断幕を作って頂きありがとうございます。

今回僕は、100メートル平泳ぎでインターハイに出場しました。結果としてはあまり満足できるようなものではなかったですが、会場の雰囲気や周りのライバルのレベルなど、いろいろと刺激をもらえる経験になりました。

次のインターハイでは、100メートル平泳ぎに続き200メートル平泳ぎも出場し、港北高校の名に恥じめよう誠心誠意頑張っていこうと思います。これからも、応援をして頂ければ幸いです。どうぞよろしくをお願いします。

放送部

2年4組 鳥越 彩花さん

素敵な横断幕を作ってくださいありがとうございます。

今回のNHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門決勝での優秀賞入賞は、とても驚きました。2年生でこの結果はとても嬉しく、次の大会でも大きく前進できるよう頑張りたいと思います。一緒に練習を重ねた同輩や後輩、また顧問の先生方には心から感謝しています。チームメイトや先生方のご教授無しでは得ることのできない素晴らしい体験でした。また、同じ学校同じ学年で、決勝の舞台と一緒に立てたというのは、人生に2度と無いことだと思います。本当に大好きなライバル、大好きな部活動です。

そして、次は放送部としてより良い順位や受賞数を目指して、これからも日々練習をしていきたいと思ひます。

放送部

2年7組 田邊 結花さん

横断幕を作っていただき、ありがとうございます。

私はNHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門に出場しました。県予選で初めて「人前で読む」ということを経験し、録音審査を経て、右も左も分からないまま憧れの決勝大会までたどり着いてしまいました。今考えると、本当にあっていう間違ったなと感じます。決勝大会の会場であるNHKホールで朗読を読むことはずっと私の夢でした。舞台上でライトを浴びた時のあの感動を、私は一生忘れないと思ひます。そして何より、私だけではなく、共に切磋琢磨してきた仲間と同じ舞台に立てたことが、1番の思い出となりました。

顧問の先生、家族、大好きな部員みんな、その他私に関わって下さっている全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。これからも、自分の朗読を多くの人に伝えていけるよう、一生懸命頑張ります。



吹奏楽部

2年7組 部長 鈴木 夢彩さん

横断幕を掲示していただき、ありがとうございます。

「第46回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜」という大きな大会で演奏出来たことをとても誇りに思っています。様々な人が私たちを支えてくださったから私達はこのような大きなステージに立つことが出来ました。同窓会の皆様方をはじめ、顧問の先生、学校の先生、保護者の方々、そして共に頑張ってくれた部員に心から感謝しています。全国大会という貴重な経験をこれからの練習に生かし、今よりもっと成長できるように頑張ります。これからも部員一同頑張りますので応援よろしくお願ひいたします。

陸上競技部

3年4組(令和5年3月卒業) 部長 長谷川 玄さん

この度は横断幕を作成していただきありがとうございます。

今年度は関東大会に3人、関東新人に3人出場することができました。そのうち1人は関東大会にて4位入賞し、インターハイにも出場することができました。チーム目標であった全員で県大会以上に出場することを目指すということによって昨年度よりさらに成長することができたと感じています。しかし、どれも個人種目のみでの出場となりリレー種目出場することができませんでした。チームの総合力が1番影響する種目だけにとても悔しく思ひます。来年度は今年度の成績を上回るために一人ひとりが目的をしっかりと持って丁寧に練習をしていき、リレー種目にも出場するとともにより大きな大会に出るだけではなく結果を残せるように頑張りたいと思ひます。応援よろしくお願ひいたします。

軽音楽部

3年6組(令和5年3月卒業) 工藤 匠真さん

横断幕を作成していただきありがとうございます。軽音楽部の大会で僕が意識していたことは自分の音楽を、歌を届けることでした。そのことに集中できたのは部活のみんなが支えてくれたからだと思います。作曲でわからないところがあれば教えてくれたり、曲を聴いてアドバイスをくれたり、大会で演奏した曲は「自分で作った曲」と言うより「みんなで作った曲」と言うのがしっくりくるのかなと思ひます。全国大会では自分は一人ではない。みんながついていけるという気持ちで自分の最大限の力が出せたと思ひます。部活のみんな、軽音楽部を応援して下さる方、支えて下さる全ての方に感謝します。これからは音楽でたくさんの人に勇気を与えられるように頑張ります。引き続き軽音楽部の応援をよろしくお願ひいたします。